

平成18年度「専修学校を活用した若者・自立挑戦支援事業」成果報告書

事業名	フリーター等が意欲的に取り組むことができる統合型eラーニングを活用した資格取得学習プログラムの開発と実証		
法人名	学校法人コンピュータ総合学園		
学校名	神戸電子専門学校		
代表者	理事長 福岡 富雄	担当者 連絡先	油谷 元洋 078-242-0014

1. 事業の概要

景気が緩やかな回復を見せる中、失業率の値はマクロ的に見れば低下し、表面的には雇用情勢が好転しているかのように見えるが、就業の実態を見ると、依然として非正社員雇用の割合は高く、若者がキャリア形成にとって重要な時期や機会を逸する可能性の高い状況が続いている。本事業では、若者がキャリアの形成を図るのに相応しいと思われる情報処理技術者の中でも最も取得しやすい初級システムアドミニストレータ(以下、「初級シスアド」)をターゲットとして、eラーニングの長所を活かしながら、若者を対象にして、5、6ヶ月程度の学習によって初級シスアドの取得を可能にする教育プログラムの開発を試みた。

本事業の調査においては、雇用情勢の実態を掘り下げた結果、情報処理技術者等の専門的技能を持った職種については雇用情勢が良く、若者のキャリア形成の機会として相応しいことを確認した。また、失業者等に対する職業訓練カリキュラムの実態を調査し、若者、特に、フリーター等の特性を考慮した学習方法を研究・開発する必要性の高いことを確認した。

以上の調査結果を踏まえ、本事業においては、若者が取り組みやすい「クイズ形式」のトレーニングによって知識の定着を図るeラーニングコンテンツなどを含めた、初級シスアド受験対策プログラムを開発した。この教育プログラムの中には、知識の習得度を常に確認できる「スキルチェックシステム」、本試験の過去の出題(解説付き)にチャレンジする「過去問演習」、本試験の出題傾向を反映した「模擬試験」等のコンテンツも開発して組み込んだ。

実証実験は、構築した教育プログラムのうち、基礎的教育はすでに受けた学生を対象にして、開発したeラーニングプログラムを実際に使用する形で実施した。その結果、事前と事後に実施した「スキルチェック」及び「クイズ」の比較から、著しい教育効果を観察できた。また、アンケートの結果からも、学生が積極的に取り組むなどの情動的効果も観察できた。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

実態調査については、労働市場に関する公的データには相対的にマクロ的なものが多く、詳細な点について確かめ切れていない部分も若干あったが、市場の傾向及び情報処理技術者に対する需要の多さを裏付けることはできた。

フリーター等の特性に合わせた教育プログラムを開発する狙いについては、取り組みやすい「クイズ」形式による知識の獲得・定着コンテンツを開発し、かつ、実証できたことで、重点開発事項に関してほぼ100%目標を達成できた。

②事業により得られた成果

本事業における「開発事業」の具体的な成果は次の3つのeラーニングコンテンツとスキルチェックシステムである。

- ・クイズ…正誤形式(○か×か)で1問につき1学習テーマでリズムよく学習できる
- ・過去問演習…平成16年春期～18年秋期の6回分の問題と解説からなり、学習者のニーズによって16種類のメニューを選択できるようになっている
- ・模擬試験…過去問の出題傾向を反映した本番さながらの試験になっている
- ・スキルチェックシステム…初級シスアドの出題範囲を体系的に網羅した大中小項目からなっている

③今後の活用

開発したeラーニングコンテンツは、初級シスアド資格の取得を希望する学生に受講を勧めると共に、生涯学習の機会においても使用することを検討したい。

④次年度以降における課題・展開

「クイズ」については、初級シスアド出題範囲の一部について開発したものであり、残る出題範囲についても、本事業の実証結果を精査しながら拡張していきたい。また、「過去問演習」についても、本試験の実施されるごとに(半年ごとに)コンテンツを追加することにより充実していきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

フリーター等がキャリアを形成するチャンスが多い分野、およびその分野における職業訓練教育の実態を明らかにするねらいで実態調査を実施した。

まず、各種調査結果を参照してフリーター等の雇用状況(全体及び年代別の失業率、非正規雇用実態の推移等)を明らかにし、次に、労働に関する公的データ等を調査して分野ごとの人材需給状況(年代別の職業分野ごとの求人・求職状況等)を明らかにした。最後に、(独)雇用能力開発機構が直接運営する職業能力開発総合大学校のカリキュラムについて公開資料を調査する(期間、時間、授業内容等)と共に、同校における失業者に対する教育訓練現場の実態についてヒアリング調査を実施した。

調査の結果、雇用情勢は全般的に好転したが、実態は非正規雇用の割合が増えたことが主で、フリーター等のキャリア形成機会は依然として少ないこと、そのような中で、「専門的技術者」、とりわけ「情報処理技術者」の雇用情勢は売り手市場の様相を呈していることが明らかになった。また、情報処理技術者を指向する若年層のフリーター等の多いこともわかり、この分野においてフリーター等のキャリア形成を図ることが雇用の需給バランスの改善に役立つことがわかった。

職業能力開発総合大学校において実施されている失業者向け教育プログラムの実態を調査した結果、情報処理技術関連の教育プログラムは非常に高度で実務的な内容であるものの、フリーター等の能力や精神状態等の特性を考慮したものになっているとはいえない実態が明らかになった。

②カリキュラムの開発

実態調査の結果明らかになったフリーター等の特性を踏まえ、易しくて楽しみながら学べる段階的学習機会の提供、常に自分の知識レベルを確認できる仕組みの提供が必要と考えた。また、それらを自分のペースで学習できるeラーニングシステムとして提供することが有効であると考えた。

しかしながら、学習の当初の段階においては、ベテランの講師による直接的な知識導入教育が必要と考えた結果、次のような約180時間のカリキュラムを構築した。

- (1) 基礎的学習(集合教育) 30時間(初級シスアドの学習領域全般)
- (2) クイズ(eラーニング) 60時間((1)で学習した知識の定着をねらう)
- (3) 過去問演習(eラーニング) 90時間(試験に対する直接的な対策学習)
- (4) 模擬試験(eラーニング) 6時間

なお、いつでも自分の知識水準を確認できるスキルチェックシステムもeラーニングの一環として提供することを前提としたカリキュラムになっている。

③実証講座

実証講座は、前述(2)～(4)及びスキルチェックシステムを使って、当校の学生33名を対象とし、平成19年1月22日から30日にかけて実施した。

教育効果については、まず、講座の前後で実施した「スキルチェック」の比較により、スキル項目に関する「伸び」を測定したが、著しい「伸び」を観察できた(スキルの小項目を得点化した値で見ると、全学生で1607点であったものが、2810点まで伸びた)。次に、「クイズ」についても講座の前後で同等のレベルのものを実施したが、これについても著しい成績の「伸び」を確認した(10点満点のクイズで、平均点が5点前後から9点前後まで上昇した)。

また、アンケートについては、90%の被験者が仕組み全体の「役立つ」と回答し、特に、初級シスアド受験対策については95%の被験者が「役立つ」と回答していた。さらに、自由意見の中には、このeラーニングの仕組みによって態度が積極的に変わったと感じられるものもあった。

④その他

フリーター等の特性を考慮したeラーニングコンテンツの開発を企図し、中でも、フリーター等にとって取り組みやすい「クイズ」のコンテンツを実現できたことが本事業の特徴的な成果といえる。